

# 磯城野高校野生生物目録

農業科学科 2年 尾崎正法

施設園芸科 2年 今井寿々花

榑本千紗

1年 清原春奈

ライフデザイン科 1年 山森菜那

岡本朔弥

白根光姫

矢野宗太郎

小山友美

福田拓弥

山森菜緒

## 奈良県立磯城野高等学校

### はじめに

私たちは身の回りの環境を知る第一歩として校内の生き物調べを行ってきた。生き物調べは2019年4月から私たちの先輩が始めていたものの、十分なものでなかった。そこで、私たちは2020年4月から、生き物調べを引き継ぎ、より詳しく充実させていくことにした。新型コロナ感染拡大に伴う休校があったため調査期間は2020年4月～2021年8月とした。

今回の「奈良県立磯城野高校野生生物目録」は、種数が多いこともあり、同定ミスや抜け落ちも多いものと思われる。しかし、この目録は、奈良盆地中央部の生物相を一括して捉えることができるため、基礎資料として有効であると考えている。

### 調査地

磯城野高校（北緯34.55, 東経135.79）の敷地すべてと西に隣接する池（保津池）と敷地北側と西側を流れる用水路を含めた範囲を調査範囲とした（図1の薄く着色した部分）。調査範囲の面積は約8.2haである。なお、磯城野高校には農業系の様々な学科があるため、敷地内には水田や果樹園、畑、花壇、造園樹木見本園等、多様な環境が見られる。

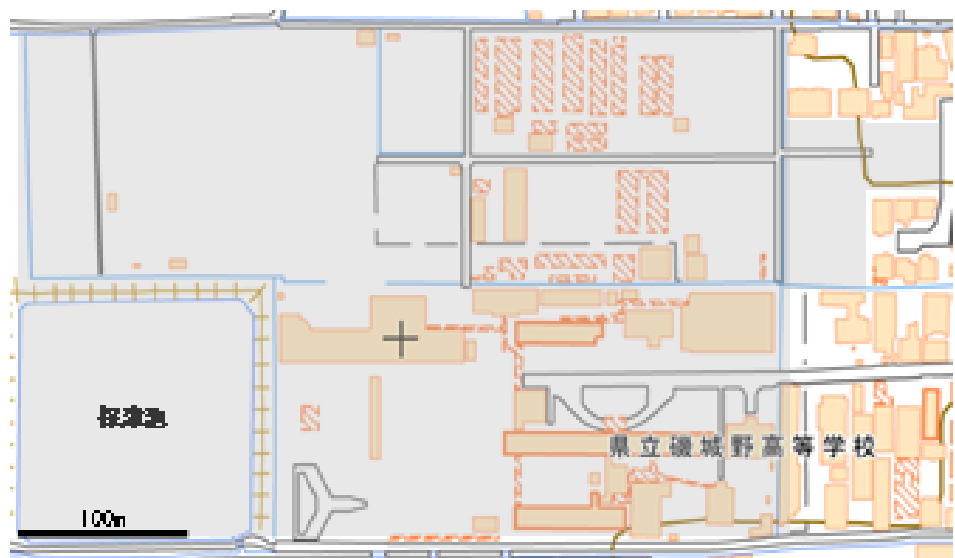
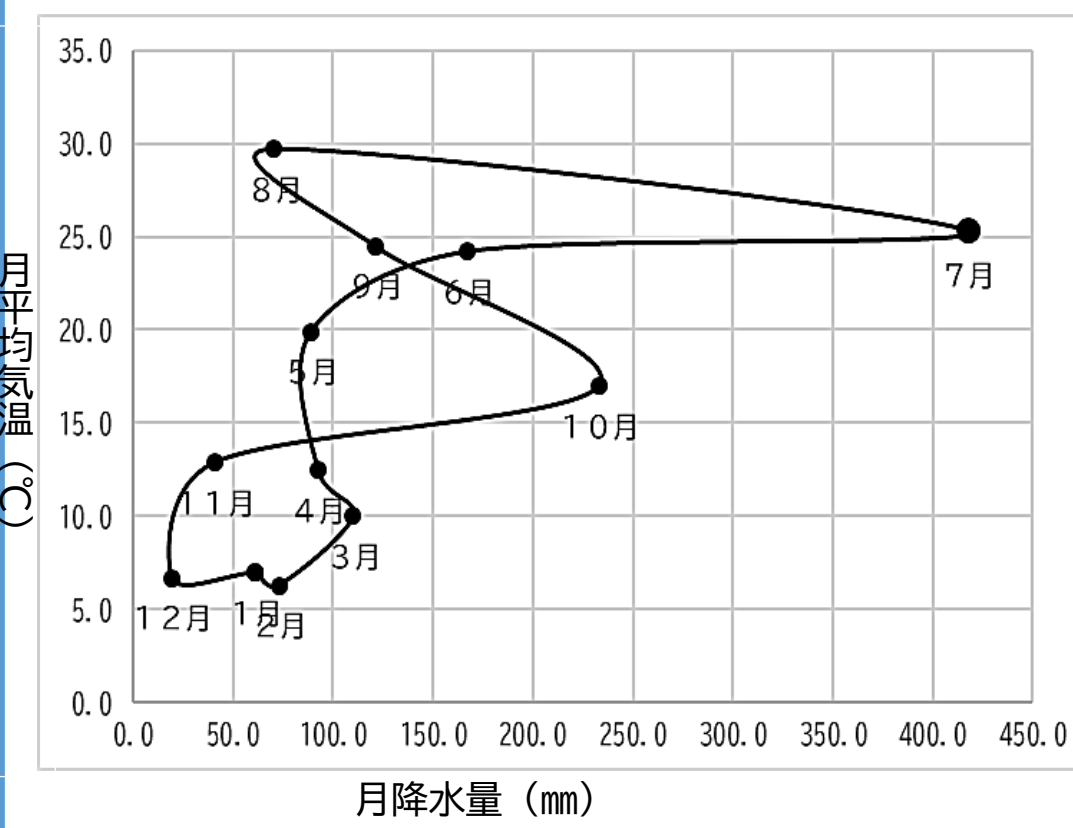


図1 調査範囲  
(国土地理院電子地図を加工して作成)



2020年1月～12月の月平均気温と月降水量の関係を図2のハイサーグラフに示した。ハイサーグラフは、降水量はアメダスが設置されている磯城野高校のデータを、気温は磯城野高校から14km程北にある奈良地方気象台のデータを利用し作成した（国土交通省気象庁Webページ<sup>\*1,2</sup>）。図2から磯城野高校は、温暖湿潤気候であることが分かる。ただ、2020年の7月の降水量は平年値と比べ倍近くとなっていたが、8月の降水量は平年値の3分の1以下とかなり少ない年であった。

### 調査方法

主に目視により種を同定した。また採取可能なもので目視では同定が難しいものは、持ち帰って種を同定した。調査時間や調査ルートは特に決めなかったが、授業等での移動時に、その都度調査を行った。なお、休日や放課後には場所を決め、重点的に調査を行った。

種によっては、標本を作製し証拠として残すようにしている。

### 奈良県立磯城野高校野生生物目録

今回、確認できた種は774種（動物431種、植物343種）であった。なお「奈良県立磯城野高校野生生物目録」の記載については、奈良県野生生物目録（奈良県2017b）にできる限り準じるようにしている。まだ未同定のものもたくさん残っているが、

奈良県野生生物目録に記載されていない種も23種見つかっている。

「奈良県立磯城野高校野生生物目録」の奈良県レッドリストに記載されている種は、動物23種、植物5種、国外外来種は、動物57種、植物132種、国内外来種は、動物4種、植物5種となった。

なお、確認種数に対し国外外来種と国内外来種を合わせた外来種数の割合は25.1%であった。特に維管束植物での外来種数の割合が高く、40.9%にもなった。

「奈良県立磯城野高校野生生物目録」は奈良県立磯城野高校施設園芸科のWebページ（<http://www.e-net.nara.jp/hs/shikino/index.cfm/1,248,c.html/248/20211028-145532.pdf>）に掲載している。

### 注目すべき種

奈良県レッドリスト（奈良県2017a）に記載されている種のうち、紙面の関係で8種だけ紹介する。

#### トラツグミ（図3）

*Zoothera dauma aurea* (Holandre, 1825)

**奈良県希少種**である。調査期間中に確認できたのは3回だけであった。写真の個体はガラス温室にぶつかって死んでしまったものと思われる。

#### ヒバカリ（図4）

*Amphiesma vibakari* (Boie, 1826)

**奈良県希少種**である。調査地の西寄にある元水田の湿った場所で不耕起栽培を行っており、ここで希に見つかる。

#### アブラボテ（図5）

*Tanakia limbata* (Temminck & Schlegel, 1846)

**奈良県絶滅危惧種**である。調査地の北側の用水路で普通に見つかる。同じ場所で見つかるタイリクバラタナゴよりは数は少ない。

#### ミナミメダカ（図6）

*Oryzias latipes* (Temminck and Schlegel, 1846)

**奈良県希少種**である。調査地内を東西に流れる用水路で繁殖している。

#### コオイムシ（図7）

*Appasus japonicus* Vuillefroy, 1864

**奈良県希少種**である。調査地の西寄にある元水田は不耕起栽培を行っているが、ここにできる水たまりで時々見つかっている。

#### ヌマガイ（図8）

*Sinanodonta lauta* (Martens, 1877)

**奈良県絶滅危惧種**である。調査地の北側の用水路でごく希に見つかる。貝殻は周辺の用水路も含め、探せば簡単に見つけることができる。

#### ナガオカモノアラガイ（図9）

*Oxyloma hirasei* (Pilsbry, 1901)

**奈良県絶滅危惧種**である。ヒメオカモノアラガイと同じ場所で見つかるが、本種の方がより水に近いところにいることが多い。

#### マツバラン（図10）

*Psilotum nudum* (L.) P.Beauv.

**奈良県絶滅寸前種**である。温室で栽培されている観葉植物の鉢にたくさん生えていた。観葉植物が持ち込まれた際、鉢に生えていたものが広がったものと思われる。



図3 トラツグミ



図4 ヒバカリ



図5 アブラボテ（採集飼育個体）



図6 ミナミメダカ



図7 コオイムシ



図8 ヌマガイ（貝殻）



図9 ナガオカモノアラガイ



図10 マツバラン

### おわりに

今回の目録を作成するために資料を集めたが、奈良盆地中央部の生物相をまとめた資料は見つけることができなかった。京奈和自動車道が作られる前に行われた環境アセスメントの資料を入手し、過去と比較したいと考えている。また、10年後に後輩たちが、もう一度調査を行い、今回の目録と比較することで生物相の変化を是非みてほしいと思っている。

### 謝辞

2021年3月まで調査をして頂いた先輩方、岩崎靖弥さん、岡田亜紀香さん、小田紗藍さん、蒲澤侑さん、川崎翔さん、木村愛美さん、信田こころ、森川桃歌さん、また種の同定についてご助言とご指導を賜りました「なら生物多様性保全ネットワーク」の先生方には厚くお礼を申し上げます。

### 引用文献

このポスター中で引用したもののみ示した。また調査に用いた文献は「奈良県立磯城野高等学校野生生物目録」の末尾に添付している。

奈良県. 2017a. 大切にしたい奈良県の野生動植物 -奈良県版レッドデータブック2016 改訂版-.

奈良県. 2017b. 奈良県野生生物目録.

国土交通省気象庁Webページ. [http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly\\_a1.php?prec\\_no=64&block\\_no=0631&year=2020&month=10&day=30&view=p1](http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly_a1.php?prec_no=64&block_no=0631&year=2020&month=10&day=30&view=p1) 観測地点 田原本町 月降水量. (2021年9月1日閲覧).

国土交通省気象庁Webページ. [http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly\\_s1.php?prec\\_no=64&block\\_no=47780&year=2020&month=10&day=30&view=a2](http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly_s1.php?prec_no=64&block_no=47780&year=2020&month=10&day=30&view=a2) 観測地点 奈良市 月平均気温. (2021年9月1日閲覧).